ビジョン･ゼロ実現に向かって

2005年12月12日（月）
省庁訪問

NPO法人　KENTO

理事　益村　友之

目次

1. 現状把握
2. 交通事故対策における問題点
3. 交通事故対策における問題による実害
4. 問題の原因
5. 問題解決に向けての提案とその効果
6. NPO法人KENTOにできること

1．現状把握

１．現状把握

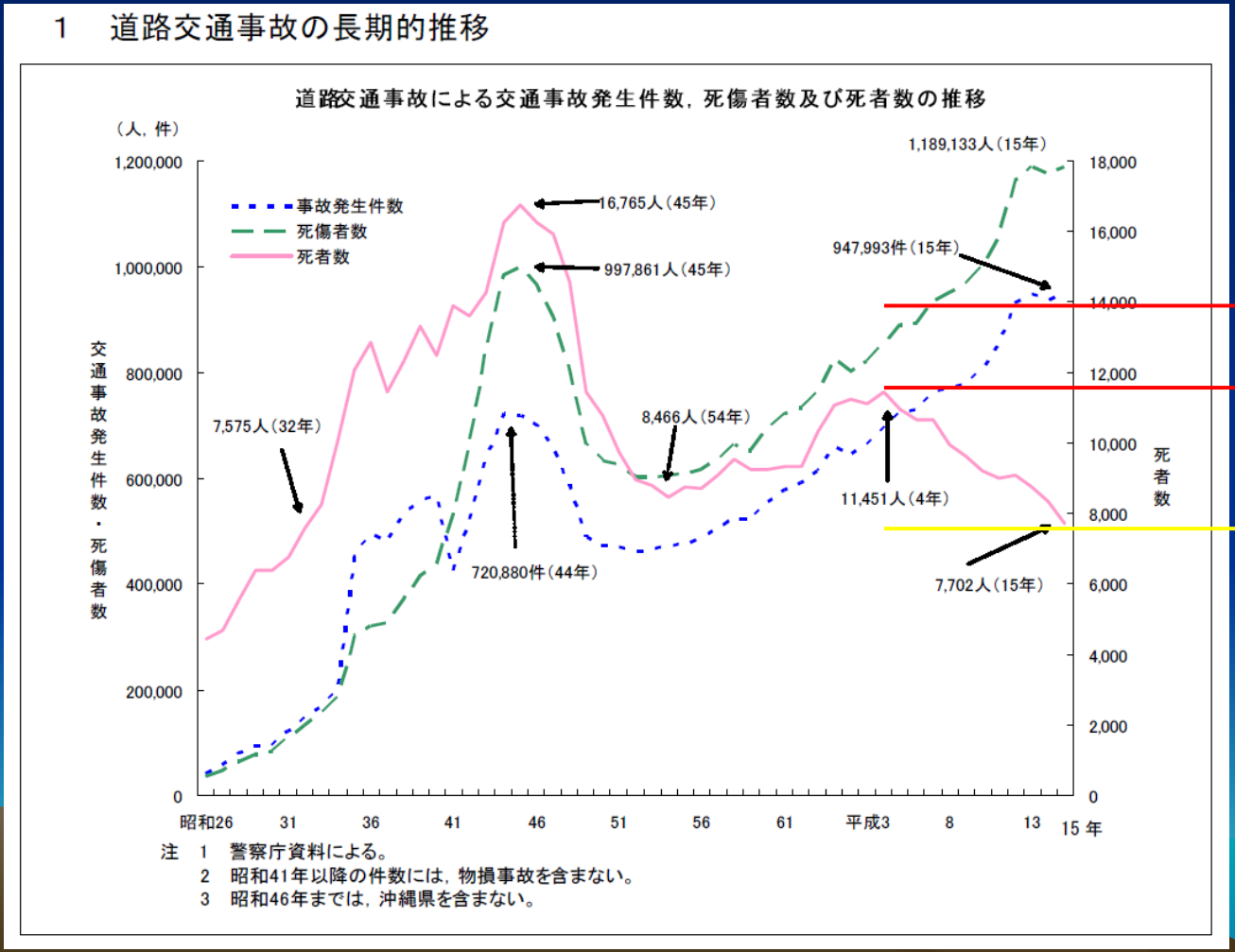
- 交通事故被害者･遺族の願いは、

もう二度と、他の誰にも、このような苦しみを
味わって欲しくない、
もう二度と、このような事故を起こして欲しくない、
こと。

交通事故被害者が二度と出ないように切望している

1．現状把握

- 交通事故による死亡者数と交通事故件数



2. 交通事故対策における問題点

2. 交通事故対策における問題点

- 内閣総理大臣の発令として、平成15年1月2日に小泉純一郎総理大臣が中央交通安全対策会議にて提言

平成25年までに交通事故死者数をさらに半減するという決意を固める

⇒平成15年の交通事故による死者数＝8,326人

⇒半分として、平成25年の死者数＝4,163人

交通事故死者数の達成目標は、ゼロ人ではない！

このままでは10年後も4000人以上の死者が出る！？

３．交通事故対策における問題による実害

3．交通事故対策における問題による実害

- 交通事故件数は依然増加傾向
- 交通事故による死傷者数の増加
- 交通マナーの低下
- 安全運転意識の低下

今後も交通事故が増加する可能性が高い

４．問題の原因

４．問題の原因

- 「交通事故だから仕方がない」という通念
  交通事故は人を死に至らせる意識の欠落
- 運転者の注意では予防不可能な事象
  道路環境、自然現象、外的要因、注意力の限界
- 運転者の安全運転意識の欠落
  飲酒、携帯電話、危険運転の防止策等

４．問題の原因

「交通事故だから仕方がない」という通念

- 交通事故は「事故だから仕方ない」、被害に遭っても泣き寝入りをするのが今までの通念
- 交通事故は、殺人と同じ、人を死に至らしめるという事が重要視されていない
- 「痴漢は犯罪」であるが、交通事故は「過失」として扱われている

４．問題の原因

運転者の注意では予防不可能な事象

- 道路環境等、環境不具合が原因で発生する事故
- 自然現象（豪雨、雪、崖崩れ等）が原因で発生する事故
- 外的要因（注意運転していても他方によって一方的に発生してしまう事故）
- 注意力の限界（人間の注意力の限界を超えて発生してしまう事故）

４．問題の原因

運転者の安全運転意識の欠落

- 飲酒運転者が未だに多く存在している
- 携帯電話を使用しながらの運転者が後を絶たない
- 交通ルールを無視したドライバーの存在
- 運転時の不注意が原因で発生する事故
- 自動車を運転する行為は常に事故と隣り合わせである事の認識不足
- 自動車の運転は命を預かる責任を伴う

５．問題解決に向けて
の提案とその効果

５．問題解決に向けての提案とその効果

- 長期的目標として、交通事故による死者ゼロを目指す
  国を挙げて全力で交通事故撲滅を目指す目標ができる
- 運転者教育体制を強化する
  学校教育、運転者教育、一般向けの教育を見直し、交通安全意識の大幅な向上を図る
- 最先端技術の早期実用化
  ITSの徹底強化と早期実用化により、事故の発生を未然に防ぐ

５．問題解決に向けての提案とその効果

目標

交通事故による死者ゼロ

５．問題解決に向けての提案と効果

教育体制の強化

現状でも行われているが、さらに

●学校教育の段階で、交通事故の怖さと身近さを、被害者の体験談・映画等を通じて命の大切さ、交通事故の恐ろしさを発信する。

●家庭教育の場において、親・親戚が子供に交通事故の怖さ、交通安全意識の重要さを教育できるよう、親・親戚への教育を強化する。

●免許保持者への安全運転講習等を今よりも頻繁に、また内容を充実させる。

●自動車学校の教育プログラムを、さらに安全運転意識向上を重視したものにする。

●違反者等への再教育は、今よりも厳格に、且つ効果的なものにする。

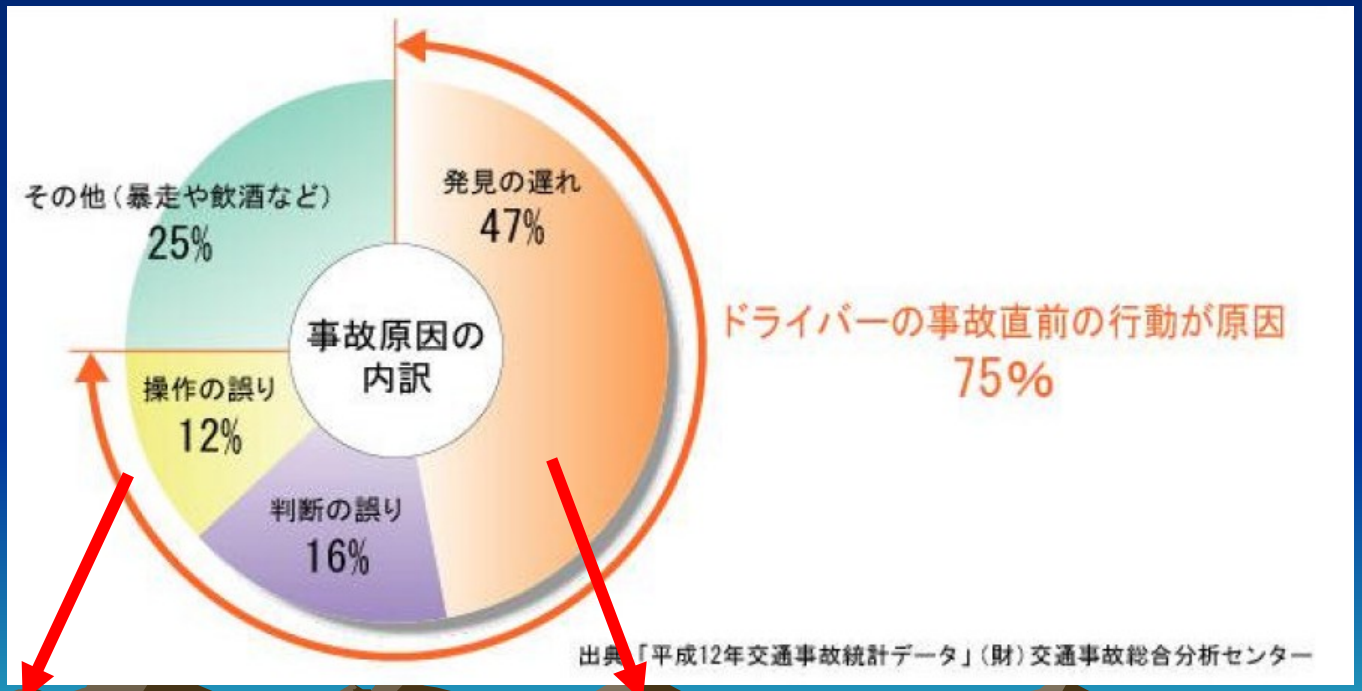
●高齢運転者の適性検査の実施や、再教育をより強化する。

被害者の立場に立って交通安全を考えられるような教育体制を整える

5. 問題解決に向けての提案とその効果

最先端技術の早期実用化

交通事故の主な原因の把握



暴走・飲酒などの原因と、ドライバーの不注意による原因に大別される

5. 問題解決に向けての提案とその効果

- 高度道路交通システムの最先端技術

出所）スマートウェイ推進会議資料

５．問題解決に向けての提案とその効果

高度道路交通システム（ITS）

の早期実用化を図り、ドライバーの不注意で発生する事故を未然に防ぐ

交通事故原因の実に75%を占める、ドライバーの不注意による事故をゼロに出来る可能性が出てくる

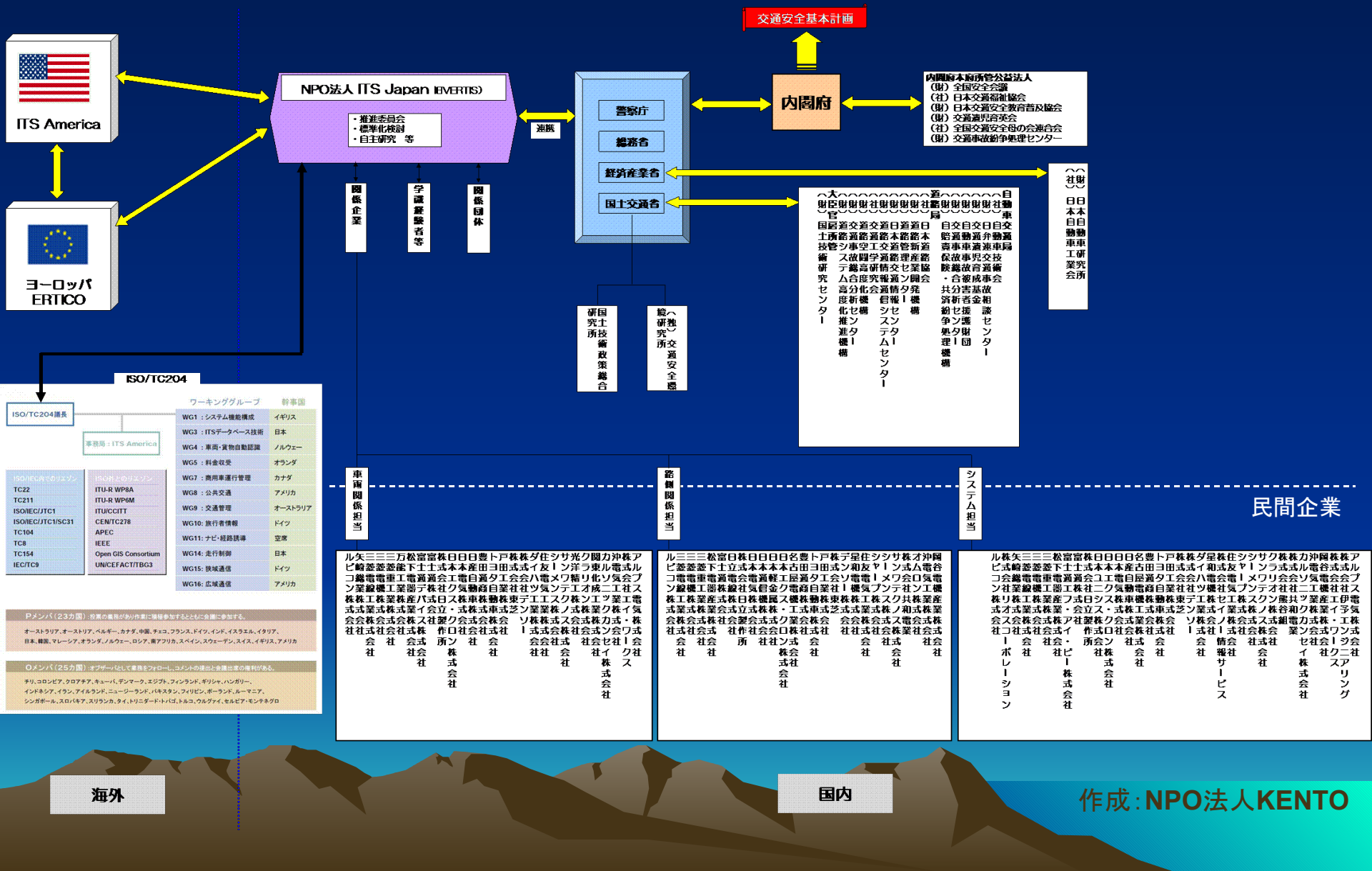
6. NPO法人KENTOのビジョン

- スウェーデンの取り組み

資料：ERTICO

学校付近に自動車が近づくと、速度が30km/h以上出ないようなシステムが試験的に導入されている。

ITSに関係する組織相関図



６．NPO法人KENTO
にできること

6. NPO法人KENTOにできること

民間の代弁者・交通事故被害者の代弁者として、

- 交通安全意識と命の大切さを発信する
- 日本中の交通事故被害者への情報提供を行う
- 交通事故撲滅を目指し、海外の取り組みを視察する
- 自らの行動により、得られた情報の発信を行う
- 国と国民の間に立ち、情報の架け橋になる

「どうして交通事故なんかに遭ってしまったんだ」
「あの交通事故さえなかったら。。。」
そんな気持ちが、一生消えることなく繰り返し押し寄せてきます。
交通事故がゼロになれば、被害に遭って甚大な苦しみや悲しみをかかえることは無くなります。

「交通事故がゼロの社会なんて実現できっこない」

そんな固定観念を捨て、すでに日本をはじめとする多くの先進国で、究極に安全な交通環境を目指し、心理学やハイテクを用いる様々な取り組みがなされています。
北欧スウェーデンでは国を挙げての、交通事故死者・重傷者をゼロにする、
「Vision Zero」運動が推進されています。

かけがえのない家族、友人、知人を交通事故から守るために、そして交通事故が永久に社会から無くなることを目指し、わたしたちは活動を続けてゆきます。
真相究明を求めゼロから出発したわたしたちの活動は、今『交通事故ゼロ』に向かい前進します。

NPO法人KENTOの掲げるビジョン（未来地図）、
それは 『交通事故・ゼロ』 社会です。